

みなと 物語



アーチ型水門 (安治川水門・尻無川水門)

昭和9年(1934年)の室戸台風、昭和20年(1945年)の枕崎台風、昭和25年(1950年)のジェーン台風、昭和36年(1961年)の第2室戸台風などで、大阪は高潮により甚大な被害を受けてきました。そこで高潮対策として、防潮堤や防潮水門、防潮扉の整備が進められ、今では大阪市内の防潮堤の総延長は約189kmにおよび、約460基の防潮水門・防潮扉が設置されています。

昭和40年代に安治川や尻無川に建設された防潮水門は、大型船舶の航行を妨げず、強風や地震などにも強い



西大阪地域図(部分)

ことから、国内では珍しいアーチ型の大水門となりました。昭和45年(1970年)3月に完成した安治川水門(港区弁天6丁目)は日本初のアーチ型水門であり、アーチ中央部では、高さ26.6mまでの大型船舶が航行できる世界最大規模のものです。

ついで、昭和45年(1970年)11月には、尻無川水門(港区市岡4丁目)が完成しました。アーチ型水門は、通常は船舶が航行できるよう水門のアーチは上に上がっていますが、台風が接近した場合などには、アーチが円弧を描きながら徐々に傾いて川をせき止め、高潮が大阪湾から遡上することを防ぎます。



安治川水門のアーチ部架設工事のようす

最近では、平成16年(2004年)9月7日に台風18号が来襲したときに、水門が閉鎖されました。これらの水門は、台風の中でも、強さ・規模において最大級と考えられている伊勢湾台風と同規模の台風が、大阪湾に最悪のコース(室戸台風の経路)を通り、満潮時に来襲した場合を想定して整備されています。



安治川水門

※画像はいずれも大阪府西大阪治水事務所提供